

また、「釜石市地域福祉計画」では、「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らす「地域共生社会」の実現を図ることとしています。

第8期計画では、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる令和7年（2025年）を見据えて、地域包括ケアシステムを構築すべく施策や事業の展開を進めていく必要があります。

また、団塊ジュニア世代が65歳以上の前期高齢者となる令和22年（2040年）を見据え、今後高齢化が一層進む中で、高齢者の地域生活を実現するため、地域包括ケアシステムのさらなる推進や地域共生社会の実現に向けて取り組みを継続していく必要があります。

以上の点を踏まえ、本計画の基本理念は、「第六次釜石市総合計画」の基本目標及び「釜石市地域福祉計画」の基本理念である「あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち」を掲げ、上位計画との一体的な取り組みを推進します。

あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち

～閉じこもらない明るいコミュニティづくり～

～虚弱化しても地域で安心して暮らし続けられるまちづくり～

高齢者が、住み慣れた地域で、安心して自分らしい生活を続けられるためには、人や地域とのつながりと支えあいが必要です。支える側も支えられる側も、地域のコミュニティの一員として希望を持って明るく生活を続けられるまちづくりが必要です。

本市では、この考え方にに基づき、高齢者を含むすべての人たちが健康ではつらつと暮らすことができるように、地域包括ケアシステムの深化に向けた取り組みを推進していきます。

【目標】

- ・健康増進・介護予防の取り組み、健康寿命の延伸
- ・住民主体の地域活動が活発に行われるまちづくり
- ・困難を抱える人の心情に寄り添った支援
- ・虚弱化しても地域で安心して暮らし続けられることができるまちづくり